

◎評価シート（平成30年度）

記入日 平成31年3月15日

平成30年度実施した協働事業について、提案団体と事業担当課において、下記の内容により互いに評価を行うことで、意思の疎通を図り、今後の事業実施等に活かすため、ご活用ください。

団体名 (記入者名)	箱の浦自治会まちづくり協議会 (会長 岡 保正)	事業担当課名 (記入者名)	介護保険課 (御坊谷 隆)
事業名	箱の浦から始まる高齢者・ひとり暮らしランチハウスの開設		
事業開始年度	平成27年度～		
提案の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民自由提案部門		<input type="checkbox"/> 市設定テーマ部門

1. 事業概要

(1) 事業目的・目標

高齢者、特に1人暮らしの方、老々暮らしの方の食事のとり方について、栄養の偏りを解消するため、多くの方々と楽しんで食事をとるとともに、食事の後に雑談、カラオケで楽しく半日を過ごしてもらい、健康維持につなげていくことを目的としている。

(2) 事業費の負担額

団体	54,000	円(予定額)
市	1,226,209	円(予定額)
合計	1,280,209	円

(3) 実施した内容

これまでの実績をふまえ、平成30年6月より、阪南市介護予防・日常生活支援総合事業における住民主体型サービス(訪問型サービスB・通所型サービスB)に基づく事業として、高齢者の居場所において、食事提供や交流の場として、活動を行ってきた。また、実施団体として、住民・医療介護職専門職・行政との協働により、「箱の浦医療福祉連携協議会」を設置し、箱の浦地域における日常生活相談支援体制を推進するなど、地域課題に応じた活動を行ってきた。

2. 事業の評価

※評価点(3段階)

3	2	1
できた	概ねできた	できなかった

(1) 協働性

評価項目	評価点 (3段階)		
相互に理解し合い、対等な関係が築けたか。	3	2	1
事業全般を通じて十分に協議を行い、行政と十分な意思の疎通が図れたか。	3	2	1
責任の所在や役割分担は、適切であったか。	3	2	1
相互に相手の強みを事業に活かすことができたか。	3	2	1

それぞれ単独で実施するより、より効果を生み出すことができたか。	3	2	1
---------------------------------	---	---	---

(2) 実現性・有効性

評価項目	評価点 (3段階)		
協働の形態（委託・共催・事業協力等）は適当であったか。	3	2	1
事業を実施するのに、十分な実施体制をとっていたか。	3	2	1
関係する多様な人たちを巻き込めたか。	3	2	1
予算は妥当だったか。	3	2	1
参加者、受益者は意図した人たちだったか。	3	2	1
参加者、受益者の満足度は得られたか。	3	2	1
予定した成果は上がったか。	3	2	1
地域のまちづくりやコミュニティ形成に役立ったか。他の地域のモデルとなり、普及したか。	3	2	1

(3) 実施してよかった点・どのような点にメリットを感じたかなど

団体 にとって	運営については、事故等のないよう細心の注意や配慮を行い、初期の目的を達成した。
市 にとって	高齢者の生活支援、社会参加、交流の場を、住民主体で運営されており、協働事業として多大な成果があった。
市民 にとって	高齢者にとって、身近な地域における生活支援や社会参加、交流の場となり、孤立の解消につながった。

(4) その他、評価点の理由や課題・その改善点など

<p>実施団体が事業を実施する中で、把握される新たなニーズにもとづき、行政・実施団体間において相互理解及び協議を行う必要がある。</p>
--

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案事業継続 提案事業以外） 休止または終了
市が単独で実施 団体が単独で実施
その他（)

※実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など補足事項を記入してください。

本協働事業の活動が先駆的な活動モデルとなり、阪南市介護予防・日常生活支援総合事業における住民主体型サービス（訪問型サービスB・通所型サービスB）を制度設計した経過があり、すでに本実施団体以外に、2団体が住民主体型サービスを実施している。

今後は、これまでの提案事業を発展化させた事業として、阪南市介護予防・日常生活支援総合事業における住民主体型サービス（訪問型サービスB・通所型サービスB）として実施していきたい。

また、「箱の浦医療福祉連携協議会」における日常生活相談支援体制の推進など、地域課題に応じた活動について、ひきつづき行政として協働してまいりたい。